

## 指定管理者制度活用事業 評価シート

### 1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

### 2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 30,757 人 (平成29年度:29,915人)	②年間延べ利用団体数 930 団体 (平成29年度:861団体)																																							
収支実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 収入</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">単位:円</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>指定管理料</td> <td style="text-align: right;">24,832,337</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他収入</td> <td style="text-align: right;">8,445,951</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td style="text-align: right;">33,278,288</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 支出</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費・賃金</td> <td style="text-align: right;">13,642,020</td> <td></td> </tr> <tr> <td>光熱水費</td> <td style="text-align: right;">1,810,041</td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託費</td> <td style="text-align: right;">2,273,734</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td style="text-align: right;">3,106,746</td> <td></td> </tr> <tr> <td>修繕費</td> <td style="text-align: right;">555,953</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">11,899,821</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td style="text-align: right;">33,288,315</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 差引</td> <td></td> <td style="text-align: right;">-10,027</td> </tr> </table>		1 収入	単位:円		指定管理料	24,832,337		その他収入	8,445,951		合 計	33,278,288		2 支出			人件費・賃金	13,642,020		光熱水費	1,810,041		委託費	2,273,734		消耗品費	3,106,746		修繕費	555,953		その他経費	11,899,821		合 計	33,288,315		3 差引		-10,027
1 収入	単位:円																																								
指定管理料	24,832,337																																								
その他収入	8,445,951																																								
合 計	33,278,288																																								
2 支出																																									
人件費・賃金	13,642,020																																								
光熱水費	1,810,041																																								
委託費	2,273,734																																								
消耗品費	3,106,746																																								
修繕費	555,953																																								
その他経費	11,899,821																																								
合 計	33,288,315																																								
3 差引		-10,027																																							
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また事業実施後に反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。																																								

### 3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の目的に沿って、野外活動に関する専門性を活かし、概ね計画どおりに事業を実施している。</li> <li>・職業体験として新たに白鳥中学校2年生の生徒を受け入れ、初回、センター職員による里山に係る指導を行ったが、2回目は専門のボランティアとともに里山の保全活動を行い、その活動の重要性について理解してもらうことができた。結果として、職業体験を行った生徒が自発的にボランティアとしてセンターにおいて里山の保全活動に参加するなど、生徒の健全育成に寄与している。</li> <li>・特別支援学級の児童を対象としたドラム缶ビザのプログラムについては、可能な限り自分の力でビザ焼き体験ができるよう、事前に学校から児童の苦手な作業について聞き取りを行うなど、調整を行った上で実施している。</li> <li>・こうしたことから、年間延べ利用者数は事業計画目標を上回るとともに、前指定管理時平均より約13.5%増加した。</li> </ul> 【参考】第2期指定管理時(平成21年度～平成25年度)平均延べ利用者数:27,106人			
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
	効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか				
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な金銭管理・会計手続について、本部との連携を強化し、毎月の収支を本部担当者がチェックするなど、チェック体制の強化を図っており、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理している。</li> <li>・効率的・効果的な支出について、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。</li> <li>・雨水貯水タンクを設置し、雨水をため、その水を草木への水やりやグラウンドの水まきに利用することで、水道料金を0.97%削減させている。</li> </ul>			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
把握したニーズが事業運営へ反映されているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・事業の広報については、チラシやニュースレター、ラジオ出演、SNSの活用等、積極的に行っているほか、新たに、主婦や若年層をターゲットにしたインスタグラムを始める等工夫を行った。</li> <li>利用者への対応については、夜間の時間帯での問い合わせに対応するため、新たにメールで問い合わせやクレーム等の対応を行えるようにした結果、施設への要望が増加した。</li> <li>当該施設は地域と良好な関係を保つよう努めており、利用者からの苦情やトラブルはほとんどないが、苦情があった際は、即座に職員会議を行い、職員全体で共有し改善を図っている。</li> <li>学校及び行政機関との連携については、東柿生小学校の先生から5年生を対象に学校の校庭を使って里山の保全及び身近にある豊かな自然について指導してほしいとの提案があり、校庭で炭焼き体験を通じて里山の保全についての学習を行うなど、地域に根差した施設運営を行っている。</li> <li>利用者ニーズについては、今年度から、アンケートの回収率を上げるために受付時に渡すファイルに挟む等の工夫を行い、事業等について、より多くの意見をもらえるよう努めた。</li> </ul>					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人員配置については、主催事業の運営やプログラムの指導の依頼に応じて柔軟な勤務体制を組んで対応しており、プロジェクトアドベンチャーローエメント資格、認定ブッシュクラフター資格等の有資格者を配置し、職員の専門知識を活かした事業展開を行った。</li> <li>職員の研修体制については、職員に対する研修だけではなく、様々なプログラムに多くのボランティアが参加しており、プログラムの趣旨・考え方、対象年齢ごとの支援の仕方などの研修を行ってから、プログラムを実施することで、プログラムを効果的なものにし、利用者の安全確保ができています。</li> <li>個人情報等の取扱いについては、黒川青少年野外活動センター個人情報の取り扱い方針を遵守し、個人情報の取り扱いについて、適切な運用を行っている。</li> </ul>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保			
	防犯対策	事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
		施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
	災害への対応	緊急時のマニュアル等が整備されているか			
		避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の保守管理については、専門の業者による定期的な点検に加え、職員も月1回施設点検を行っている。また、敷地内の広大な裏山については、地域のネイチャーボランティアや地域の利用団体の協力により適切に管理している。</li> <li>利用者の安全確保については、事故対応マニュアル(安全管理マニュアル)を改定し、日常の設備点検や衛生管理等のチェック項目を明確化し、それを全ての職員に指導を行なって内容を徹底することにより、安全の質を向上させている。また熱中症計の使用や経口補水液の常備など、夏場の熱中症対策を行っている。</li> <li>災害への対応として、防災訓練を実施したほか、「安全管理マニュアル」に沿って災害時のシミュレーションを行った。</li> </ul>					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

#### 4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、  
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、  
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

幼児から成人まで、幅広い年齢層に対応した、多彩な青少年体験事業を実施し、野外活動の普及に努めた。また、「バーベキューインストラクター講習会」や「野外レクリエーションセミナー」など、野外活動の指導者養成にも着実に取り組んだ。さらには、「黒川のおもちつき」や「自然体験フェスティバル」の開催等を通じて、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。

広報の取組としてインスタグラムなどのSNSを活用して新規利用者の獲得に取り組んだり、新たな事業を立ち上げ、利用者層の拡大を図るなど、施設の利用促進にも努めている。また、地域の学校と連携して里山授業・里山プログラム体験を実施するなど、ユニークな取組も行われている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も都市における貴重な自然を多くの市民に知ってもらい、地域と連携して、身近に野外活動を体験できる環境づくりを進めてもらうとともに、野外体験活動を通して、青少年の健全な育成が図られるような魅力ある事業を展開してもらいたい。また、アンケートの実施方法を工夫するなど、引き続き、利用者ニーズの把握について積極的に取り組むことが望ましい。